

古里治めた中世の豪族 益田氏の繁栄 興味深める

中世に現在の益田市一帯を治めた豪族・益田氏ゆかりの史跡や古文書を素材にした社会科の授業が13日、同市栄町の益田中学校であった。1年生28人が、昨年3月に国史跡に指定された中須東原遺跡（益田市中須町）の出土品や益田家文書の記述から、益田氏が海洋交易で栄えたことを学び、古里の中世の歴史に興味を深めた。

益田中で独自の社会科授業

生徒たちは、同遺跡でタイ産の陶器やベトナム産の磁器が出土したことや、益田氏第20代当主の益田元祥が交易で朝鮮半島からトラの皮や蝦夷地（現在の北海道）の昆布を入手して毛利元就へ贈ったことを、山本悦生教諭（45）から学習。益田氏が日本海から東南アジアにかけての海洋交易ネットワークを活用して繁栄したことを理解した。

市木佑侍君（13）は「地元を治めていた益田氏が勢力を持っていたことが分かり、地域の歴史をもっと知りたくなった」と話した。

中須東原遺跡や益田氏を素材にした山本悦生教諭（中央奥）の授業を受ける生徒たち

281年生
人 海洋交易の実態学ぶ

